

令和元年度 第1回鶴岡市総合教育会議 次第

令和元年12月19日(木)

午後1時15分～市役所庁議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議

(1)朝暘第五小学校の改築について

(2)オリンピック・パラリンピックホストタウン事業とそのレガシー（遺産）について

(3)いじめ問題について

4. 閉会

【協議題 1】朝暘第五小学校の改築について

1 朝暘第五小学校の概要 [切添町 15 番 4 号、面積：4,931 m²]

朝暘第五小学校校舎は、昭和 39 年に建築（54 年経過）、屋内運動場も昭和 41 年に建築され（52 年経過）、平成 5～7 年度に大規模改修工事を実施しているものの、校舎は市内小中学校の中で最も古く、屋内運動場も 2 番目に古い施設となっている。

2 これまでの要望等の経過

H29.8 校舎改築の早期実現の要望（代表 9 名の連名で教育長へ）

H30.10 市長と語る会での意見交換

R 元.6 校舎改築の早期実現の要望（9 団体の代表 8 名の連名で市長・教育長へ）

※ 現地建替が地域の要望であることを確認

3 意見交換会 [11月6日（水） 主催：朝暘第五小学校教育振興会]

(1) 出席者：一般 40 名、学校関係者、市関係部署（教育委員会、防災安全課、建築課、子育て推進課）

(2) 市からの説明事項

ア 洪水時の防災面への対応

[ソフト面] 赤川タイムライン（3 日前からの行動計画）、避難確保計画の作成、訓練の実施

[ハード面] 堅牢な建物の建設、高層化による緊急時の退避場所（垂直避難）の確保

イ 学童保育所の整備

児童数が減少傾向にあるなか、学童保育所の登録児童数は年々増加しており、現在、学校の近隣 4 カ所に分散開設している。学校敷地内に校舎改築に合わせた整備が求められているが、既存の学童保育所の取扱い、活用も検討しなければならない。

※ 五学区登録児童数：H21 90 名、R 元 180 名（10 年間で 2 倍）

(3) 地域住民からの意見

現地改築に肯定的な意見 [多数]

「緊急時の一時的な高所の避難場所に成り得ることを聞いて安心した。」「一日も早く事業を進めてほしい。」

※ 少数意見 「せっかく建てるのであれば、安全なところに建ててほしい。」

4 期成同盟会の立上げ

現地改築を前提とした期成同盟会の立上げについて協議し、承認された。

5 今後の対応

地域の受け皿となる期成同盟会が立ち上がったことから、同会を通し、必要な意見交換を行いながら、要望等を集約し、基本計画の作成など事業を進めていく。

協議題 2】オリンピック・パラリンピックホストタウン事業とその レガシー（遺産）について

【ホストタウン事業の意義】

オリンピック・パラリンピックを地域の活性化、グローバル化、観光振興等につなげるため、参加国や地域との人的・経済的・文化的な総合交流を図る取組みで、スポーツの振興、教育文化の向上及び共生社会の実現を図ろうとするもの

【これまでの取組み】

1 オリンピアン・パラリンピアンとの交流 (オリンピックを身近なものとして、興味関心を持っていただくもの)

- ・日本人選手による講演会
2017年1月 水鳥寿思氏（体操）
2017年10月 田崎俊夫氏（卓球）
2019年2月 池田めぐみ氏（フェンシング）
2019年5月 三宅義信氏（重量挙げ）
2019年10月 杉内周作氏（パラ水泳）

2 事前合宿の誘致及び相手国に関する勉強会の開催 (ホストタウン国とのスポーツ文化の相互交流)

- ・強化合宿実施状況（受入実証実験）
2018年3月 ドイツボッチャ選手団
2019年4月 モルドバアーチェリー選手団
2019年8月、11月 モルドバ柔道選手団
- ・相手国選手や大使館職員の学校訪問等による交流
2017年5月 櫛引南小・櫛引中（モルドバ駐日大使等）
2018年2月 鶴岡中央高（モルドバ駐日大使等）
2018年2月 栄小（ドイツ農業者）
2018年10月 南部児童館（モルドバ大使館職員）
2019年3月 市内柔道スポ少（モルドバパラ柔道連盟会長等）
2019年3月 市内サッカースポ少（ドイツ独日協会理事等）
2019年4月 鶴岡南高・鶴岡中央高（モルドバアーチェリー選手団）
2019年4月 大泉小（モルドバ駐日大使等）
2019年8月 市内柔道スポ少（モルドバ柔道選手団）
2019年11月 羽黒高校柔道部員（モルドバ柔道選手団）
2019年11月 市内障害者・老人福祉施設（ドイツボッチャチーム関係者）
2019年11月 市内サッカースポ少1.2年生（ドイツ独日協会理事等）
2019年12月 市長杯ボッチャ大会（ドイツボッチャチーム関係者）
※ ドイツ、モルドバ両国との食や農業をテーマとした交流事業などを開催

3 ボッチャ競技の普及 (障害の有無に関係なく取り組めることによる共生社会の実現)

- ・スポーツイベントや福祉体育祭、バリアフリー講習会等、様々な機会を活用しながら

らボッチャ体験コーナーを設置し、福祉団体等とも連携をとり普及を図っている。

4 スポーツ施設等の整備

トイレの洋式化（小真木原陸上競技場、小真木原テニスコートクラブハウス、宝田体育館、羽黒体育館、朝日スポーツセンター）

多目的トイレの改修（小真木原総合体育館、小真木原陸上競技場）

【協議題3】いじめ問題について

[現状と課題]

いじめの認知件数の推移（H27～30年度）

	項目	H27	H28	H29	H30
小学校	年間総認知件数	279件	378件	582件	1,208件
	解消した件数（解消率%）	240件(86%)	341件(90%)	518件(89%)	1,028件(85%)
	解消に向けて取り組み中…(A)	39件	37件	64件	180件
	(A)の内、いじめが継続しているもの			24件	83件
中学校	年間総認知件数	81件	193件	97件	120件
	解消した件数（解消率%）	62件(77%)	186件(96%)	76件(78%)	94件(78%)
	解消に向けて取り組み中…(A)	19件	7件	21件	26件
	(A)の内、いじめが継続しているもの			3件	6件

1 いじめ認知件数の増加について

- ・平成30年度と過去3カ年を比較すると、いじめ認知件数が大きく増加している。29年度と比較しても約2倍に増加している。
- ・この要因として、29年3月に国のいじめ防止基本方針が改定され、いじめの定義の解釈が拡大したことがある。
→従前は「けんかは除く」とされていたが、「けんかやふざけ合いでないじめに該当するか判断する」と方針が改定された。
- ・認知内容の約半数は「冷やかしやからかい」であり、気にさわることをされたり言われたりしたというものも多く認知されている。
- ・小さなトラブルであっても積極的にいじめを認知し、児童生徒の支援につなげられるよう取り組んでいる。
- ・今年度の4月から7月末までの状況は、小学校：総認知件数958件、中学校：総認知件数135件であり、前年同期よりさらに増加しており、学校がより積極的にいじめの認知を行うようになっている。

2 いじめに係る重大事態の発生について

- ・ささいなことから始まったトラブルが遊び感覚で長期化、陰湿化し、被害児童の長期不登校につながり、いじめ重大事態に至った事案が昨年度と今年度に発生した。
- ・今年度発生した事案については、対応委員会として第三者委員による調査を行うことになり現在その対応を行っている。

3 いじめ問題への対応について

- ・ きめ細やかに認知しているにもかかわらず、大きな事案に至るケースも出ていることから、被害者やその家族に寄り添った初期段階での対応が極めて重要である。
- ・ 教員や学校によって、いじめの認識や、いじめへの対応に差が生じることのないよう、担任が抱え込まず、組織的に対応することが極めて重要である。
- ・ いじめ防止対策を推進するために、関係機関や団体、学校と教育委員会で組織するいじめ問題対策連絡協議会を開催し（年2回）いじめ問題についての共通認識を深め、情報交換を通して連携を図っていくことができるようにする。